

公表： 令和6年 2月 28日

事業所名：ケスイバ・デボル

		チェック項目	はい	どちら でもない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			必要物品を最小限にし、活動場面や、機能訓練スペースを確保できるように考慮を行っている。	特になし
	2	職員の配置数は適切であるか	○			1日の職員配置を適切に保つために、職員の休みが重ならないように配慮している	特になし
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか		○		視覚的情報量を最小限にするなど、区別をつけたスペースの配置環境になるよう工夫している	事業所、入口段差、幅の狭さが問題として考えられる。事業所内においても2階使用時の階段昇降が必要になった際の対応方法や対策の検等が必要である。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○			利用時の導線を考慮し、荷物置き場、手洗い場へのつながるよう工夫や声掛けを行っている。	特になし
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○			職員全体での話し合いを毎朝設け、情報共有、伝達の場合として利用している。	業務改善による目標をより細かく設定していく
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			保護者との連絡ツールを利用し、より多くの回答を頂き改善が行えるよう声掛けやフォームの利用等を行っている。	特になし
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			保護者連絡ツールを利用し、評価表結果を保護者もいつでも確認できるようにしている	特になし
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○			特になし	外部評価により業務改善に繋げられるようにする。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			定期的な研修会の開催を行い、情報共有を行うようにしている。	外部研修への積極的参加
適切な 支援の 提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○			保護者や各種関係機関との情報共有を行っている。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			各児童ごとに標準化されたアセスメントシート・行動分析表を使用している。	アセスメントツールを全職員一定の知識で使用できるよう研修を定期的に行なっていく
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○			ガイドラインの趣旨に沿ってどの項目なのか記載しながら計画書作成を行っている。	地域支援について、今以上に多くの支援方法を取り入れていく
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○			個々に対し統一した支援を行うことができるよう日々支援の方向性を話し合っており、適時ケース会議もやっている。	特になし
	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			土祝長期の活動は毎月話し合いを実施、学校日はその日の朝ミーティング時に話し合いをし決めている。	より多くの活動プログラムの立案ができるよう、話し合いの時間を多く設ける
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			日々の活動を職員間で話し合い、その日の児童数・メンバーによって内容を決めている。	特になし
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	○			児童に合わせて、個別の課題や前回通所時の振り返りを実施している。	今後も課題となる部分は、職員間で共有し支援計画に組み込んでいく
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			朝のミーティング内で活動内容・前日の振り返り、個別で対応が必要な児童について等支援内容について話している。	特になし
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			その日に行くことは勤務上難しいこともあるが、翌日朝のミーティング時に前日の振り返りを実施している。	特になし
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			ミーティング時に活動時の個々の様子を振り返っている。	記録の統一性を今以上に図っていく、検証、改善につなげていく
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○			半年ごとのモニタリング、児童に合わせて3か月ごとの面談も随時行っている。	特になし

公表： 令和6年 2月 28日

事業所名：ケスイバ・デポル

	チェック項目	はい	どちらでもない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携関係	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			管理者や利用児童の担当者が参画している。	
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○			保育所等への同行を行い、連携を図っている	今後は保育所等訪問支援や様々な支援方法を見直し、より連携が図れる体制を整えていく
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか					該当なし
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか					該当なし
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○			未就学児の環境や療育の情報共有を図り、環境の変化にもスムーズに療育ができるよう心かけている	新1年生などは卒園した園や療育施設との会議ができるよう体制を整えていく
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○			担当者会議を開いて情報共有を図っている。	今後も継続して行なっていく
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか			○	特になし	今後、情報共有を図れるようにしていく
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		○		特になし	地域の園や学校など交流が図れる機会を増やすために町内会活動などへの参加から進めていく
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか			○	特になし	今後、参加ができるよう情報収集を行なっていく
保護者への説明責任等	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っているか	○			保護者迎えの際に利用者の事業所やご自宅の様子、課題について伝え合い共有することが出来ている。	今後も継続して共有の機会を図り、共通理解に努めていく
	31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか			○	特になし	家族支援プログラムの方法を学ぶ機会を設け、職員の知識など習得を図った上で、実際の家族支援プログラムを作成し、支援を行っていく。
	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			契約時に時間をしっかりと設けて説明を行なっている	特になし
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○			課題と目標が明確に把握できるよう、言葉を工夫して伝えるようにしている。疑問点などはその場で聞ける環境を整えている	保護者に伝える前に職員間でもロールプレイをするなどより保護者が理解できるような練習を行なっていく
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			お迎え時に活動の様子を共有だけではなく、家庭のことや学校のことなども聞くように心かけている	小集団での保護者会などを開き相談会が気軽にできる環境を整えていく
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		○		保護者会を通して、保護者同士の交流が図れるようグループワーク等の時間を設けている	相談会や保護者のグループワークの時間を多く設けていく
	36 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			保護者連絡ツールや電話などを介して迅速に対応している	継続して、申し入れや相談があった時は職員間で共有を図り、迅速に対応していく
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			毎月、活動案内などを発行している	継続して発行していく
	38 個人情報の取扱いに十分注意しているか	○			個人台帳を児童が入らない職員スペースで管理している。	引き続き個人情報の取り扱いに注意するため、研修などを通して注意喚起を図る
	39 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			事前にアセスメントを行った後、情報収集を経て支援に入っている	意思疎通を図るツールや道具など必要に応じて準備をしていく
	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか			○	町内会への入会	町内会への行事に参加するなど交流の機会をまず、増やすことから始めていく

公表： 令和6年 2月 28日

事業所名：ケスイバ・デポル

	チェック項目	はい	どちらでもない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○			活動を通して子どもたちとも訓練を行なっている	定期的にマニュアルなどの見直しを行い、保護者にも情報共有を図る
	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			法定研修などを通して行なっている。またBCP作成を行なっている	BCPを通して職員間での共有を定期的に行う
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか	○			保護者や関係機関から収集した情報を児童情報に入力し、事前に職員全員が確認できるようにしている	継続して行なっていく。また、実際にてんかん発作など起きた場合の対処方法などを職員研修で行なっていく
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか		○		事前に保護者から情報を聞き取り職員間で共有。支援ツールソフトでも適時確認ができるようにしている	モニタリング等面談時に情報更新を引き続き行なっていく
	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			グーグルフォームを活用しリアルタイムで情報共有が図れるようにしている	継続して行なっていくことごと、小さなことでもヒヤリハットが出てくる環境を作り続ける
	46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			定期的に研修を外部の講師とともに行なっている。	事例を基に職員間で話す機会も増やしていく
	47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか			○	委員会を通して定めている	現状対象児童がいないため、必要時に備えた準備や知識共有を定期的に行なう

- この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。
- 「はい」、「いいえ」の欄は、数を記入するのではなく、職員による自己評価結果を踏まえ、職員全員で討議した結果について回答すること。（該当する方に○を記入）